

JSL カリキュラム 4 年国語科学習指導案

〇〇市立〇〇小学校

1 単元名 詩を楽しもう 「春のうた」

2 対象

(1) 子どもの実態

- ・ 出身国：ブラジル
- ・ 母 語：ポルトガル語
- ・ 滞日歴：2年半（内1年2ヶ月未就学）
- ・ 就学年月：9ヶ月

(2) 子どもの現在の学習する力（レディネス）

〈 日本語の力 〉

① 聞く力・話す力

日常会話は、たどたどしいながらも少しずつ話そうとしている。語彙が少ないために、自信がもてない。話しかけられると、コミュニケーションをとることができる。

② 読む力

読むことが好きで、家庭学習でも意欲的に音読練習をしている。図書の本にも関心を持ち、読書に親しんでいる。しかし、文意の把握がやや困難で、支援が必要である。

③ 書く力

初期指導で平仮名・カタカナを習得し、1、2年の漢字もほぼ書くことができる。3年の漢字は、まだ定着してない部分もある。日記や作文を書くことが好きで、短い文章ではあるが、毎日三行日記を進んで書いてくる。助詞の使い方が不安定なときがある。

〈 教科の知識・スキル 〉

3年と4年の1学期に詩の学習をしてきている。文が短く言語面での抵抗が少なく、漢字や語句などもあまり難しいものがないので、楽しく、リズムカルに音読表現をすることができている。また、進んで暗唱をするなど、詩に対する関心が高い。

(3) 教材観

詩全体が、生き生きとまぶしいような明るさに満ちている。春、初めて地上に出てきたかえるの視点で表現された春の喜びは、読み手を新鮮な気持ちにさせてくれる。文が短いため、言語面の抵抗が少ない。また、子どもに親しみのある教材で、4年生の初期の児童にとって文学的に興味を持たせ、豊かな表現を通して、場面や情景を思い描かせるための教材として最も適切であると考えられる。

(4) 外国人児童に対する指導方法

- ・ 在籍学級との連携を密にするために、学習の計画や様子について情報交換をする。
- ・ 発問は、AUカードを意識した分かりやすい言葉にし、ゆっくりと明確に話すようにする。
- ・ 初めて出会う日本語の言葉について、絵や翻訳で理解できるように前もって準備をする。
- ・ 児童にとって効果が得られるように、適宜、別室個別指導と同室複数指導を行う。
- ・ 楽しく音読することをキーワードとなる語句をしばり、動作化や音声化、読む速さやリズムの工夫をさせる。

3 単元目標

情景を想像したり、リズムを楽しんで声に出して読んだりし、作品の世界に浸る。

4 評価規準

【関心・意欲・態度】・詩に興味をもち、進んでほかの詩も読もうとしている。

【読む能力】

- ・場面に移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むことができる。
- ・書かれている内容の中心や場面の様子がよくわかるように声に出して読むことができる。

5 単元計画（全3時間）

第1時「春のうた」を音読、視写し、難しい語句の意味を理解する。（別室個別指導）

第2時 かえるの様子を想像しながら工夫して音読し、感想を持つ。（別室個別指導・同室複数指導）

第3時「春のうた」や「春」をテーマにした詩三編をいろいろな方法で音読する。（同室複数指導）

6 本時の学習（第2時）

(1) 目標

○ 教科の目標

- ・春の訪れを喜ぶかえるの様子を、叙述をもとに想像しながら読むことができる。
- ・言葉のリズムを楽しみながら、声に出して読むことができる。

○ 日本語の目標

- ・「わたしは、～の文がすきです。そのわけは、～だからです。」という日本語表現で発表することができる。（AUカード K-2「思ったことを表現する」K-3「その理由を表現する」）

(2) 準備物 ワークシート ことば絵じてん

(3) 授業展開（別室個別指導→同室複数指導）

	学 習 活 動	主なやりとり	支 援
つ か む	1 学習のめあてをつかむ。 【別室個別指導】	T2：学習のめあてを大きな声で読みましょう。	
	かえるの気持ちになって、工夫して読もう。		
	2 「春のうた」を音読する。 【別室個別指導】	C：（めあてを読む。） T2：春になって、地上にでてきたのは、だれでしたか。 C：かえるです。 T2：今日は、かえるの気持ちになって「春のうた」を読みましょう。	・めあてを声に出して読むことで、学習意欲をもたせる。 ・前時に視写した自分のノートを3回音読させる。
	3 場面の様子やかえるの気持ちを読み取る。 【別室個別指導】	T2：地上に出てきた「かえる」は、何を見つけましたか。 (AU：E-11)	・かえるが見つけたものに、印をつけてから発表させる。

<p>深 め る</p>	<p>○地上に出たかえるの見つけたもの</p> <p>○かえるのうれしい様子や、おどろきの様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっ まぶしいな ・ほっ うれしいな ・ほっ いぬのふぐりが ・ほっ おおきなくもが ・ケルルン クック 	<p>C：水と風です。 C：太陽と大きな雲です。 C：いぬのふぐりです。 (AUカード A - 1)</p> <p>T2：「ほっ」という言葉がたくさん出てきますが、かえるは、どんな気持ちでしょう。</p> <p>C：春になって、うれしいです。 C：びっくりしています。</p> <p>T2：「ケルルン クック」が、カタカナで4回出てきました。線を引きましょう。</p> <p>T2：これは、何を表していますか。 C：かえるの鳴く声です。 T2：2回繰り返しの「ケルルン クック」をかえるになって、読みましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほっ」と「ほ」を声に出して読み比べ、「ほっ」の方が驚きや喜びが表れていることを、動作化で気づかせる。 ・ノートの「ケルルンクック」に線を引かせる。 ・「ケルルン クック」という擬声語を挟んで、かえるの気持ちが高まっていく様子を工夫して音読させる。
<p>発 信 す る</p>	<p>3 「春のうた」のすきなところを書き抜き、感想を書いて発表し交流する。</p> <p style="text-align: center;">【同室複数指導】</p> <p>4 「春のうた」を暗唱できるくらいまで朗読する。</p>	<p>T1：自分のすきなところを選んで線を引きましょう。そのわけも書きましょう。</p> <p>C：(ワークシートに書く。全体を通しての感想が書けるなら、自由に書く。)</p> <p>C：「わたしは、～の文がすきです。そのわけは、～だからです。」 (AU：B - 5)</p> <p>T1：「かえる」の気持ちになって、工夫して読みましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを準備し、書かせる。 ・ワークシートをもとに、大きな声で感想を発表させる。 ・言葉のリズムを楽しみながら元気よく朗読させる。

【評価】

- ・ 声に出して詩を読み、言葉のリズムを楽しむことができたか。
- ・ 春の訪れを喜ぶ様子を想像しながら工夫して読むことができたか。
- ・ 詩の感想を書いて発表し、友だちと交流することができたか。

7 成果と課題

(1) 成果

- 1時間の授業の中で、前半は、別室個別指導で内容理解と音読練習をし、後半は学級に戻り、発表交流や朗読をするという方法を担任と日本語指導で計画を立て連携した指導ができた。結果、声に自信のなかった外国人児童が、自信をもって学級の皆と楽しく元気な声で詩を朗読表現することができたことは、大きな進歩である。
- 「わたしは、ケルルクックのところが好きです。そのわけは、読むのが楽しいからです。」という感想をワークシートに書いて発表した。別室での音読練習でも、自分なりにリズムや声の大きさを工夫し、「かえる」になりきって表現したり、「ほ」と「ほっ」の違いを動作化したりして、春の喜びを表現するなど、意味理解もできたように思う。

(2) 課題

- 「春」のイメージが、日本と外国人児童の母国とでは違うのではないかと察し、子ども多文化共生サポーターの方に翻訳をお願いした。必要に応じて、JSLカリキュラムの授業においても日本語だけの指導ではなく、将来の進路を見通した上での指導が必要である。